



集 中 と 分 散 と

応用電気研究所 教授 山 崎 勇 夫

ふた昔前も研究室ではタイプが働き続けた。しかし、その多くは文献蒐集を目的とするものであった。参考論文の要点を転記、整理するにすぎないから、事ある毎に原本を再読する必要があった。関連の研究が続く限り、その原本はすぐ傍にあってほしかった。

ひと昔前は写真による論文の複写が盛んで、暗室がにぎわった。労多くして仕上りはあまり感心出来なかった。しかし、その複写が完成するとその原本との縁は切れた。現在、複写の技術は完成の域に近づき、手軽に希みの論文の写しを手近かに備えうるようになった。

自然科学の最近の進展は従来の学問の境界をあいまいにしつつある。理・農・工・医・薬など理科学部系の研究者が共通の場で、特定の問題を討議する機会が増えている。類似のことは、現在の学部を中心とする図書の管理方法にも歪として蓄積しつつある。例えば、学内で数多くの雑誌が重複し、一方その増大する雑誌の管理に苦勞する結果となっている。それでもなお、それぞれの他学部の雑誌に対する依存度はかなり高い。

自然科学研究において、最近の意外な悩みは研究報告の過剰生産である。ある人は、後に残すべき価値あるものはその一割に達しないと極言している。その価値判断の規準に問題があるにしても、膨脹する雑誌類の蓄積はやがて深刻な問題になる可能性がある。これらの情報の整理には大雑把に、羅列的な Abstract 方式と、かなり執筆者の主観が加わる Review 方式とが採用されている。いずれにしても、これら整理された情報は、分散している莫大な数の原論文を背景にして生きているのである。

大学における、伝統的な図書管理の方式など簡単に動かせるものではないだろう。しかし現存する歪を分析し、より効果的な方式を検討することは意味がある。このとりとめもない小文の意図を明確にするため、自然科学系図書管理の極端な一案を述べて結びとしたい。それは原則的に集中と分散との二極化方式の採用である。整理された情報は出来るだけ専門グループの身近かに分散させ、他方その背景となる雑誌類は一括中央管理とする。研究者は Abstract, Review 又はコンテンツサービスなどにより知った、必要と思われる論文をセンターに電話で請求する。翌日にはその論文の写しが郵便受けに届いているという仕組みである。この案の実行には、ここで触れない多くの問題が附随するが、その利点は明瞭である。大学としての自然科学系図書の管理、運用は合理化され、管理センターに高度の機能性を期待出来るからである。

◆ 会 議

第33回 図書館委員会

<と き 昭和43年9月17日(火)>

<ところ 附属図書館会議室>

協 議 題

1. 閲覧個室(第1種及び第2種)の割当てについて——利用期間の満了に伴い利用者の選考が行なわれ、第1種は5名、第2種は29名が決定された。
2. 一般演習室の割当てについて——今回は、文学部・経済学部・教育学部から申し込があり、各々許可された。
3. 寄託図書内規について——館長から本館側提案案の主旨について説明し、審議の後了承された。
4. 露語雑誌の翻訳版の購入について——館長から過日、部局及び委員宛に連絡した上記の件については、事務上の処理が終り次第委員会にはかりたい、との説明があった。

報 告 事 項

1. 日米大学図書館会議について——館長から会議準備委員会の経過報告と、会議の概要について説明があった。

主な点は、次のとおりである。

(1) 会議の名称

和 文 名 第1回日米大学図書館会議

英 文 名 The 1st Japan-U.S. Conference on Libraries and Information Science in Higher Education

(2) 日時及び場所

1969年5月13日(火)～5月16日(金)

国立国会図書館、その他

(3) 会議計画

(イ) 議 題

- 1 大学教育のための大学図書館の役割
- 2 入手困難な資料の収集および交換
- 3 図書館業務と情報検索のためのコンピューターの使用
- 4 大学及び研究図書館のための図書館学と情報科学のための専門教育の問題
- 5 人物交流

(ロ) 参加者

米国側 約20人 日本側 約200人

(ハ) 会議の主催・運営

国立大学図書館協議会、公立大学図書館協議会及び私立大学図書館協会が合同で主催することになっている。

2. 機械化検討小委員会の設置について——館長から委員会を設けたことの主旨と、その具体的な活動等については、後日改めて委員会に報告したいことを説明した。
3. 教養分館について——館長から教養分館設置について、これ迄も概算要求を行なって来たが、本年度の要求は学内順位も上位となっていることと、学生関係施設の充実ということが重要視されていること等もあり、見通しは明るいとの説明があった。又建設場所は、現在の教養部と工学部との間になる模様であるとの説明もあった。
4. 道地区大学図書館職員研究集会
5. 全国図書館大会
——事務部長から各々の主旨と実施報告があった。

昭和 43 年度 全国図書館大会

昭和 43 年 9 月 5 日～7 日までの 3 日間にわたり全国図書館大会が北海道で行なわれた。大会の主旨は全国図書館の協力体制の確立，社会との結びつきの強化等についてであった。

第 1 日目 9 月 5 日，開会式が 10:30～12:00 札幌市民会館で行なわれ，午後 13:40～15:30 小林秀雄氏の記念講演（文芸雑感）があった。

第 2 日目 9 月 6 日，部会が 14 部会に分かれそれぞれ研究発表討議が行なわれた。

部会内容は下記の通り

第 1 部会 公共図書館（北海道大学）

公共図書館はいかにすれば住民に親しまれるかをテーマとし，これに関連する事例発表を中心に諸問題を討議した。

第 2 部会 公共図書館の機能と施設計画（北海道大学）

公共図書館建築のあり方について，施設委員会の諸報告を中心として，地域計画建築計画書，基本計画等諸問題について討議した。

第 3 部会 子どもの読書（札幌市立図書館）

親子読書や語りきかせなどの事例発表を中心とし，図書館員，母親，教師等による集会をもった。

第 4 部会 読書運動（北海道大学）

読書運動の意義と具体的な方法について，各地の経験をもちよって討議した。ことに市民とのより密接な結びつきという図書館活動の基礎的な問題について新しい経験や地域社会の変貌の中での読書運動の実態を報告し，将来の方策を考えた。

第 5 部会 郷土の資料（札幌市立図書館）

開道百年の北海道大会にちなみ，開拓初期の北海道関係文献についての講演，郷土資料の複写による収集とサービスの現況と将来について事例発表と討議を行ない，あわせて文書館問題の経過を報告し，郷土資料のあり方と将来への展望をはかった。

第 6 部会 図書館協議会（北海道大学）

図書館協議会連合会の組織の強化，国家予算の獲得等についての討議と併わせて各協議会の活動の事例発表により図書館職員の身分の確立および図書行政の推進をはかった。

第 7 部会 大学図書館（北海道大学）

大学図書館間の相互協力ならびに大学図書館の組織，管理の実態についての研究討議を行なった。

第 8 部会 短期大学図書館（藤女子大学）

全国・国・公・私立の短期大学図書館の充実改善のため，国・地方自治体等の補助金，資料の入手交換に関する地域社会の各種図書館との相互協力，専門職養成等を中心に討議を行なった。

第 9 部会 学校図書館（札幌市立本通小学校）

授業参観ののち 9 分科会に分かれ，読書指導の問題を中心に学校図書館の管理運営と教科学習の諸問題について討議を行なった。

第 10 部会 特殊専門図書館全体会議（水産会館講堂）

専門図書館活動の基盤となるべき図書館の相互協力を主題とする。このため午前には館種別に問題点をひきだし，午後の全体会議において総合的に討議した。更に専門図書館における専門職員の訓練について研究討議が行なわれた。

第 11 部会 図書館学教育（藤女子大学）

改訂された司書講習科目の内容を検討し，批評する集会をもった。

第 12 部会 整理技術（北海道大学）

図書館協力の観点から整理業務の能率化のために，目録共同作業の可能性とくに印刷カードの活用と改善についてその実態の分析ならびに将来の方向づけを探索した。

第13部会 レファレンス・サービス (北海道大学クラーク会館)

昭和41～42年度のテーマ「レファレンスのための図書館協力」をさらに深めるために、本年は「書誌編さんにおける相互協力」の問題を取り上げ事例発表とパネルディスカッションによって、問題点を明らかにした。

第14部会 図書館員の問題研究 (北海道大学)

現場で働く図書館員の当面としている問題を自由、卒直に討議し、年々の成果をつみ上げながら図書館員の連帯、協力のあり方について討議を行なった。

第3日目9月7日、北海道立図書館において、全体会議を行ない、引きつづき次回大会開催地及び当番図書館長を選出し、大会3日間の全日程を終了した。次に第7部会について主な点を紹介する。

第7部会 大学図書館

議長	今村成和	北海道大学附属図書館
	岩猿敏生	京都大学附属図書館
	角田俊雄	早稲田大学図書館
	荒木有信	大正大学図書館
進行	金木藤雄	北海道大学附属図書館

全国図書館大会第7部会「大学図書館」について

今村議長、奥村藤嗣日本図書館協会大学図書館部会長の挨拶、議長団の紹介後、大学図書館間の相互協力並びに大学図書館の組織、管理の実際についての研究発表討議にうつった。

午前の部では

大学図書館の諸問題について

(1) 専門職の諸問題について

前島重方 (国学院大学図書館)

専門職制度の確立、大学図書館が要求する図書館職員、図書館学校のあり方、専門職員の採用(いかなる職員を採用するか)、職員の研修についての問題等について発表があった。

(2) 日・米の大学図書館を比較して

田辺広 (東京大学附属図書館)

整理業務中の目録にしぼって話され、米国においてはL.C.と大学図書館の連絡が非常によく保たれていること、及び米国のシェヤードカタログ(収書および目録のための国家計画)について述べ、専門カタログの業務が軽減し得ること、米国以外(ソ連を除く)についても集中目録制を現在とってきている。結論としては洋書についてはL.C.、和書については国立国会図書館の印刷カードの利用が望ましいと発表があった。

(3) アメリカの大学図書館について

原田隆吉 (東北大学附属図書館)

アメリカの大学図書館の人的、物的、機能の面、思想的背景、管理、組織の面等について発表があった。

午後の部では

東京大学附属図書館長伊藤四十二氏の「日米大学図書館会議について」次とおりの報告があった。日米両国の大学図書館および研究図書館の発展を促すに、図書館相互ならびに書誌上の協力を推進することを目的とした会議で

- (4) 日本の国立大学図書館協議会のなかに準備委員会を設けて、具体的準備作業に当たっていること。準備委員会のなかに、実行委員会を設け、そのなかに総務委員会(委員長東大伊藤館長)、プログラム委員会(委員長阪大板垣館長)が置かれ、事務局を東京大学附属図書館内に設け、同佐竹事務部長が事務局長に委嘱されたこと。

- (ロ) 国・公・私立大学図書館の組織が完全に提携して第1回の会議を開くこととなったこと。
- (リ) 組織委員会の発足を10月2日(水)に予定され、その発足までに委員等役員を決定し組織委員会に移行することとなったこと。

この後追加課題として

- (1) 大学図書館と研究図書館について

～アメリカ研究図書館協会～

Dr. Foster E. Mohrhardt (アメリカ農務省図書館長)

研究図書館と大学図書館の全国的調査をめざす最近の米国の努力について。

- (2) 大学図書館の協力体制について

鈴木 幸久 (Asia Library of the Michigan University)

アメリカ議会図書館・大学図書館における協力目録の計画について。

- (3) 大学図書館の相互協力に関連して

酒井 悌 (国立国会図書館連絡部長)

国立国会図書館の交換業務についての紹介、本年より8ヶ国の機関を交換相手国として追加され、計21ヶ国25機関と交換できることになったので、各大学においても、大いに利用されたい。

- (4) L.C. シェヤードカタログの東京事務所にについて

松本 久男

等の講演があり、奥村藤嗣日本図書館協会大学図書館部会長の閉会の辞をもって終了した。

◆ 研 究 会

第12回 北海道地区大学図書館職員研究集会について

昭和31年に第1回研究集会を開催して以来、今年で12回目を迎えた標記研究集会は、北海道地区大学図書館協議会(昭和26年設立)が主催となり、道内の国・公・私立の各大学図書館員が一同に集り、日頃の図書に対する問題・研究しているテーマ等を各館員に披歴し、お互いが一生懸命研究し合うことを目的として発足したものである。

この度の研究集会の午前の部では、次のとおり個人発表が行なわれた。

1. 大学図書館のセントラリゼーションとディセントラリゼーションについて
——外国と日本の比較——
2. 図書館規程について
3. 単行本書誌について(統計的考察)
4. 北大附属図書館における複写業務の現況について

午後からは、今村北大附属図書館長より特別講演が約1時間あった。

その後、2つの分科会に分れ

第1分科会 「大学図書館活動について」

各パネルメンバーより図書館活動についての種々文献の紹介、相互協力活動について、大学図書館参考活動の現状、視聴覚資料活動について、大学図書館調査票(日本図書館協会調査)に基づいて自館の活動状況等現況の発表があった。

第2分科会 「ローマナイズにおける諸問題」

ローマナイズにおける諸問題のなかで、道内の図書館において排列作業に関する調査集計、外国における日本語図書館のローマナイズの実例、目録ローマニゼーションの手引規則並びに記入例の資料の配布があった。

これらは“実験と資料の作成が、各館の目録業務担当者によって共同作業として試み

られてはどうだろうか”と言うことでこの会は閉じられた。
いずれの分科会でも熱心に質疑応答がなされた。

この大会の日時等は

日 時 8月9日(金) 午前 9:00~16:30
場 所 北海道大学
参 加 者 180 名
参加大学 18 大学

来年もこの研究集会が開催されるわけであるが、この研究集会をより意義あるものとするために各館員の日常業務におけるたゆまざる努力が期待される場所である。



本学部は、昭和 27 年に農学部獣医学科より分離して、国立大学中唯一の獣医学部として独立したものである。当時農学部の建物を一部使用していたが、昭和 39 年の第 1 期工事から昭和 41 年の第 3 期工事にかけて行なわれた新校舎が完成し移転した。新校舎は構内の最北端(北 18 条)に位置している。

図書室は事務室(整理室) 28 m²、閲覧室 56 m²、書庫 112 m² が設けられている。

講座は今年度新たに 1 講座が増設され、計 13 講座である。各講座には図書室があり、購入した図書等は各講座に保管されている。

また、学生の附属図書館の利用状況を見ると、附属図書館には本学部教官の指定図書(年間約 10 万円)が購入されているが距離的な関係から利用されにくい現状なので、42 年度からは、少額ではあるが、学部にも学生用の図書を購入し閲覧室に配架して学生の利用に供している。

現在学部所蔵の雑誌は約 90 種であるが古いものの中には欠号もあるので今年度から欠号雑誌の補充に重点をおき国内、国外欠号分の現物の入手に努力するとともに、入手不可能なものについてはゼロックスで複写して補充する計画である。

今後、利用者に対するレファレンス サービス、事務の合理化等に努力していきたいと考えている。

◆ 学内図書館だより

<附属図書館>

“機械化検討小委員会” 発足

電子計算機を附属図書館に導入し、業務の効率的運営を計ろうとする試みについては早くから話題として出ていたが、この度学内の専門の方々のご協力を得て、標記小委員会が発足することとなった。計算機を利用するといってもそれには館員の理解と協力がなくては実現出来ないし total system を考えるためには、各業務部門間の連携分析も重要なことであろう。各位の委員会へのご協力をお願いしたい。委員は司馬助教授(教育学部)、長田助手(理学部)、

谷本 (附属図書館), 横山 (〃), 石川 (〃), 清水 (〃), 宮部 (工学部) の方々である。

アイヌ資料展示会

附属図書館展示室 期間 8月30日, 9月2~3, 6日

4年毎に開催される国際人類学民族学会議の第8回会議が今年はわが国で開かれたが(9月3~10日, 東京および京都), その開会前に来日外国人学者の北海道見学旅行が行なわれた。目的は北海道の先住民族とくにアイヌ民族文化にふれることである。この機会に本館は同会議組織委員会の依頼を受けて標記の展示会を開催した。

本館はその地理的特殊性および研究者の関心のために, 以前からアイヌ関係資料について網羅的な蒐集をおこなっており, その集書はすでに貴重な文化財となっている。

今回の展示会は準備期間と展示設備の制約のため必ずしも満足なものとはならなかったがそれでもアイヌ関係資料の中から単行本約240冊, アイヌ絵11点, 蝦夷古地図10点を展示し展示会場は学内外の多くの熱心な参観者で賑って, なかなかの好評であった。また外国人学者のために展示会目録 *Exhibition of Books related to the Ainu Culture* を作成した。展示会の期間がとびとびになったのは, 人類学会議参加学者の参観ののち一般(9月2~3日), 全国図書館大会参加者(9月6日)のために引続き層示会を行なったためである。



アイヌ資料展

**Exhibition of Books related to the Ainu Culture.
Arranged for the VIIIth International Congress of
Anthropological and Ethnological Sciences.**

B5版 18頁 オフセット印刷 1968年8月 刊行

第8回国際人類学民族学会議の組織委員会の依頼により開催した展示会の目録で, 展示資料約260点を含む。資料は12項目に分れ, 展示の順に排列されている。書名はすべて英訳し, 簡単な注記を付す。

○ 北海道大学附属図書館 収書通報 No. 5 (1967, 12~1968, 4) B5版 175頁 オフセット印刷 1968年7月刊行

○ The Voice of America FORUM LECTURES TAPE LIST

(北海道大学附属図書館・語学演習室)

このリストに載っている V.O.A. の放送講演集 (総数 309 巻) は今世紀中葉におけるアメリカの各分野についての概括と俯瞰を試みたもので、研究者、専門家を対象とした学術講演集です。

一つの講演の所要時間は約 30 分間で、各講演にそれぞれテキストが附属しています。

このリストに載っている講演テープは大学院学生および教職員に限り館外貸出を行ないます。貸出期間は 10 日間で一回 3 巻までです。

○ 指定図書目録 (北海道大学附属図書館) 昭和 40 年 4 月~昭和 43 年 3 月 B5 版 54 頁 オフセット印刷 1968 年 8 月発行

本学教官が出版した著作物 (単行本) 第 3 回

法 学 部

中川善之助・島津一郎・山畠正男・山崎邦彦 註
解親族法 (昭和 25 年)
平出慶道 株式会社の設立 (昭和 42 年)
富田容甫・横越英一・弥益祥純・鈴木安蔵 政治
学研究叢書 (1) ハルドラスキ研究 (昭和 29 年)
矢田俊隆 岩波講座現代思想 III 民族の思想 II
近代民族理論の系譜 (昭和 32 年), 近代中欧の
自由と民族 (昭和 41 年), 新制世界史 (昭和 41
年)
小菅芳太郎・野田良之 訳 (Vecchio Giorgio. Del.
著) 法と国家 (昭和 34 年)
樺 俊雄・水田 洋・監野谷九十九・遊部久蔵・
矢田俊隆・原田 鋼・山中康男・馬場明男・難波
絞吉・国松久弥・猪木正道 社会科学を学ぶため

に (昭和 26 年)

医 学 部

村尾 誠・本間 威 訳 (Comroe Forster Dubois
Briscoe Carisen 著) 肺一臨床生理学と肺機
能検査法 (昭和 43 年)
杉江三郎 現代外科学大系第 15 巻, 血管外科
杉江三郎・鮫島夏樹 臨床外科全書第 5 巻 内脈
及び脾臓 (昭和 43 年)

文 学 部

野田寿雄 平賀源内の人と生涯 (昭和 19 年), 近
松 (昭和 31 年), 西鶴 (昭和 33 年), 仮名草子集
上 (昭和 35 年), 同 下 (昭和 37 年), 近世小説
史論考 (昭和 36 年), 雨月物語全紀 (昭和 38 年),
近世文学の背景 (昭和 39 年)

図 書 館 専 門 職 業 務 実 習

昭和 43 年 7 月 15 日から 31 日まで、鶴見女子短期大学の 2 年生 1 名, 8 月 5 日から 20 日まで、東横学園女子短期大学 2 年生 1 名は図書館学単位修得のため、附属図書館において、図書の受入、整理、運用、参考奉仕活動、情報管理活動等の専門業務全般にわたって実習を行なった。

北海道大学附属図書館報 「楡蔭」 Vol. 2, No. 5 (通巻 11 号)

1968 年 9 月 30 日 発行 発行人 齊 木 一 郎

発 行 所 北海道大学附属図書館 札幌市北 8 条西 5 丁目 電話代表 71-2111 (2966)

印 刷 所 文 栄 堂 印 刷 所 札幌市北 3 条東 7 丁目 電話 23-5560